

令和7年度 第11回 旭地域会議 会議録

■日 時：令和8年2月5日（木） 午後8時00分～午後9時15分

■場 所：旭支所2階会議室

■出席者： 豊田市長 太田稔彦

<委員13名> 板倉小夜子（会長）、稲垣雅子（副会長）

安藤孝之、伊藤和夫、伊藤圭一、大塚昌義、鈴木雄也、富永英明
鳥居信宏、成瀬初恵、増田尚子、柳井清一郎、渡邊さとみ

<事務局> 杉本憲彦（支所長）、児嶋勇吾（副支所長）

岡本拓也（担当長）、山本悟（主査）、平井一輝（主事）

<地域活躍部> 青木勉（地域活躍部長）

<関係課> 加知直人（総合山村室副室長）、井崎広児（森林課長）、
稲垣量平（産業振興課担当長）

<傍 聴> 24名

1 開 会

2 旭地域会議会長 あいさつ

3 豊田市長 あいさつ

4 提 言

（1）提言書手渡し・写真撮影、提言内容説明

（2）質疑応答及び意見交換

5 閉 会

市長コメント

【内容（要約）】

1 開 会

2 旭地域会議会長 あいさつ

旭地域会議は2年間、各集落の課題を出し合い、将来の旭がどうあるべきか議論を重ねる中で、今回の3つの提言が生まれた。全員で作り上げた提言なので、今後の施策に生かされることを期待する。

3 豊田市長 あいさつ

4 提 言

（1）提言書手渡し・写真撮影、提言内容説明

板倉会長から豊田市長へ提言書を手渡した。その後、地域会議委員から提言内容の説明を行った。

（2）質疑応答及び意見交換

地域会議委員と市長で、提言1から3のテーマごとに意見交換を行った。

【提言1】

委員：空き家バンクの登録が少なく、移住希望者の選択肢の拡大が課題。固定資産税の減免など、登録を促す制度があれば移住希望者の支援につながる。

委員：移住・定住を進めるには空き家の確保が不可欠だが、新築可能な土地が少なく、所有者が売却や賃貸に積極的でない限り移住希望者が住めない現状がある。例えば、地域内で公共的目的を持つ団体が不動産会社を立ち上げ、宅地の確保～コミュニティ支援までを担う仕組みを整え、市の支援を得ながら地域主導で不動産を循環させる必要があると考える。

市長：市役所は旧町村を横並びで見がちで、特定の地域だけで突出した取り組みを進めづらい面がある。地域が主体的に制度設計し、「旭としてこう進めたい」と示す方が早い。山村地域は待ったなしのため、小手先ではなく、大胆で象徴的な取り組みを打ち出すことで、人口減少下でも旭に希望が持てる未来を示すことが重要。

【提言2】

委員：家裏の危険木伐採事業は安心につながる有効な制度であり、知られていない声も多いことから継続と対象拡大を望む。先人が植えた木を有効活用し、学校や公共施設でも積極的に地域材を使うことで、「豊田は地域材を活かすまち」と実感できる環境づくりを期待する。

委員：旭の豊かな自然の中で暮らす中で、森は人の手が入ってこそ守られる存在だと実感した。子どもたちが自然と関わり心を育む「木育」を教育に取り入れ、森林保全や活用の知識を学ぶことが大切だと感じている。

委員：田んぼはカモシカやシカ、イノシシの被害で収量が大きく減り、植林した木もシカに食害される深刻な状況。現在は罠による防除が中心だが、捕獲を強化し被害を減らす方向にも取り組んでほしい。

市長：危険木伐採補助については継続する。また、対象の拡大については、「住み続けられる環境を守る」という目的を踏まえ、検討すべきと感じる。また、地域材利用や木育については、部活動の地域移行と結びつけ、中学生が木工や地域材活用に関わる仕組み

をつくれれば、教育・地域づくりなどの面で多重の効果が期待できる。獣害対策では、現行の囲い中心の方法では限界がある。東南アジアでは人用と動物用に田んぼを作っているところもあると聞いたことがあるが、何か名案はないだろうか。

【提言3】

委員：旭のプレミアム商品券を購入し、地元の店を応援したいという思いから、今後も継続的に発行を支援してほしい。普段は大型店を利用しがちでも、商品券があることで地域の消費を促し、地域の活性化につながると感じている。

委員：地元商店の利用促進は、移動販売・ネット販売・商品券など時代に合った取組として継続すべきである。また高齢化や店舗の老朽化、後継者不足を踏まえ、複合商業施設の整備は利便性向上や観光誘致にも効果があると考え。リニア開業も見据え、旭の地理的課題はあるものの、創意工夫を前提に検討してほしい。

市長：プレミアム商品券はニーズが高い一方、単なる「得して終わり」ではなく、関係人口の増加につながる仕組みが必要。例えば、長期間の利用期間を活かし、旭や小原など複数地区の催しを巡るような使い方ができれば、地域回遊性が高まり、リピーターづくりにもつながるのではないかと考える。複合施設整備は採算面から民間参入が難しいものの、街全体を一つの商業空間として見立てる「街中丸ごと〇〇」のような発想なら可能性があるかもしれない。

5 閉 会

市長：空き家バンクの物件登録が少ない一方で、これまでに100組もの移住が成立している点について、「なぜ旭が選ばれているのか」を分析することが重要。課題ばかりに目を向けるのではなく、移住者が感じた旭の魅力を掘り起こし、その強みを伸ばす発想が未来への希望につながる。

— 午後9時15分 令和7年度 第11回旭地域会議終了 —